

スポーツ柔整科

柔道整復科

実務的科目一覧

※色で塗られている科目が、今年度配置されている実務経験のある教員による授業科目

柔道整復科

分野	教育内容	必修 選択	授 業 科 目	区分	単 位 数	科 目 時 間	1年次		2年次		3年次	
							前	後	前	後	前	後
基礎	科学的思考の 基盤人間と生活	必修	生物学	講義	4	60	30	30				
		必修	栄養学	講義	2	30	15	15				
		必修	医療コミュニケーション	講義	4	60	30	30				
		必修	情報リテラシー	演習	2	30	30					
		必修	医用英語	講義	2	30	15	15				
専門 基礎	人体の構造 と機能	必修	解剖学Ⅰ(運動器：骨格系、筋系)	講義	2	60	30	30				
		必修	解剖学Ⅱ	講義	2	60	30	30				
		必修	解剖学Ⅲ	講義	2	60			30	30		
		必修	解剖学Ⅳ	講義	2	60			30	30		
		必修	生理学Ⅰ	講義	2	60	30	30				
		必修	生理学Ⅱ	講義	2	60			30	30		
		必修	解剖生理学Ⅰ	講義	2	30	30					
		必修	解剖生理学Ⅱ	講義	1	15			15			
		必修	運動学	講義	2	60			30	30		
		必修	高齢者の生理学的特徴・変化	講義	1	15			15			
	必修	競技者の生理学的特徴・変化	講義	1	15				15			
	疾病と傷害	必修	一般臨床医学Ⅰ	講義	2	60			30	30		
		必修	一般臨床医学Ⅱ	講義	1	30					30	
		必修	病理学	講義	2	60			30	30		
		必修	外科学概論	講義	2	30				30		
		必修	整形外科	講義	2	30				30		
		必修	リハビリテーション医学Ⅰ	講義	2	30			30			
	柔道整復術の適応	必修	柔道整復術の適応	講義	2	30						30
		必修	関係法規	講義	2	30						30
	保健医療福祉と 柔道整復の理念	必修	衛生学・公衆衛生学	講義	2	60					30	30
		必修	職業倫理	講義	1	15						15
		必修	柔道Ⅰ	実技	1	30		30				
		必修	柔道Ⅱ	実技	1	30			30			
		必修	柔道Ⅲ	実技	1	30				30		
		必修	柔道Ⅳ	実技	1	30					30	
	社会保障制度	必修	社会保障制度	講義	1	15			15			
	専門	基礎柔道整復学	必修	基礎柔道整復学Ⅰ	講義	2	60	30	30			
			必修	基礎柔道整復学Ⅱ	講義	2	60	30	30			
			必修	基礎柔道整復学Ⅲ	講義	2	60	15	45			
			必修	基礎柔道整復学Ⅳ	講義	2	60	30	30			
			必修	基礎柔道整復学Ⅴ	講義	2	30	15	15			
			必修	基礎柔道整復学Ⅵ(外傷保存療法の経過及び治療の判定)	講義	2	60					30
		臨床柔道整復学	必修	臨床柔道整復学Ⅰ	講義	2	60			30	30	
必修			臨床柔道整復学Ⅱ	講義	1	30			15	15		
必修			臨床柔道整復学Ⅲ	講義	2	60			30	30		
必修			臨床柔道整復学Ⅳ(物理療法機器の取扱い)	講義	1	30					15	15
必修			臨床柔道整復学Ⅴ	講義	2	60					30	30
必修			臨床柔道整復学Ⅵ(柔道整復術の臨床的判定・医用画像)	講義	2	60					30	30
必修			臨床柔道整復学Ⅶ	講義	2	60					30	30
必修			臨床柔道整復学Ⅷ	講義	2	60					30	30
必修			臨床柔道整復学Ⅸ(機能訓練指導)	講義	1	30					15	15
必修			臨床柔道整復学Ⅹ	講義	1	30						30
必修			臨床柔道整復学Ⅺ	講義	1	30						30
柔道整復実技		必修	柔道整復実技Ⅰ	実技	2	60	30	30				
		必修	柔道整復実技Ⅱ(臨床実習前施術試験等)	実技	1	30	15	15				
		必修	柔道整復実技Ⅲ	実技	2	60	30	30				
		必修	柔道整復実技Ⅳ(高齢者の外傷予防)	実技	1	30						30
	必修	柔道整復実技Ⅴ	実技	2	60			30	30			
	必修	柔道整復実技Ⅵ(競技者の外傷予防)	実技	1	30				30			
	必修	柔道整復実技Ⅶ	実技	1	45			45				
	必修	柔道整復実技Ⅷ(機能訓練指導実技)	実技	1	30						30	
	必修	柔道整復実技Ⅸ(スポーツコンディショニング実技)	実技	2	60						30	
	必修	柔道整復実技Ⅹ	実技	2	60						30	
	必修	柔道整復実技Ⅺ	実技	2	60						30	
臨床実習	必修	臨床実習Ⅰ	実習	1	45		45					
	必修	臨床実習Ⅱ	実習	1	45			45				
	必修	臨床実習Ⅲ	実習	1	45				45			
	必修	臨床実習Ⅳ	実習	1	45						45	
合計					107	2775	435	480	480	480	480	420
今年度配置されている実務経験のある教員による授業科目					63	1830	225	330	270	225	420	360

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 関係法規 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

## 1 授業の内容

柔道整復師として業務に従事するうえで、「柔道整復師法」とその業務や医療従事者一般として必要な医事福祉法規を中心に、理解しておくべき法令を学ぶ。

## 2 到達目標

法の意義、体系をもとに、柔道整復師法および柔道整復に関する法規を理解する。また、患者の権利やリスクマネジメント、そして、医療従事者の資格法、社会福祉関係法規についても、それらの内容を理解する。

## 3 授業の方法

教科書を用いた講義。

## 4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

## 5 評価の際の特記事項

特になし。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

法規は難しい言葉や表現があります。授業前に予習（教科書を読む）を行い、難しい言葉の意味を事前に調べるように、予習をする習慣をつけてください。

## 7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「関係法規・2024年版」南江堂

## 8 学生へのメッセージ

関係法規は、柔道整復師の社会的役割とその使命を全うする為に必要な知識です。積極的に学ぶように努力してください。

## 9 教員氏名（ 舘川 大輔 ）

所 属 （ ところ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験 （ 施術所にて柔道整復師として勤務経験あり ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 関係法規 ）

回数	授業内容
1	法の意義、法の体系
2	柔道整復師および柔道整復に関する法規
3	柔道整復師と患者の権利
4	医療過誤とリスクマネジメント
5	柔道整復師法 ー 第1章 総則、免許
6	柔道整復師法 ー 第2章 免許
7	柔道整復師法 ー 第3章 柔道整復師国家試験
8	柔道整復師法 ー 第4章 業務
9	柔道整復師法 ー 第5章 施術所
10	柔道整復師法 ー 第6章 雑則 第7章 罰則
11	柔道整復師法 ー 第8章 指定登録機関及び指定試験機関 第9章 附則
12	関係法規 ー 医療従事者の資格法 医療法
13	関係法規 ー 社会福祉関係法規 社会保険関係法規 その他の法規
14	まとめ
15	定期試験
16	試験解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 職業倫理 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

## 1 授業の内容

柔道整復師としての倫理、マナー、コンプライアンスの基本を学習する。

## 2 到達目標

柔道整復師に求められる倫理、柔道整復師・施術所に対する信頼、柔道整復師としての社会貢献・社会奉仕について理解する。医療関係者として求められる倫理、マナーについて理解する。患者に接する際の心構え、患者の自己決定権の尊重、プライバシーの保護とインフォームドコンセントについて理解する。

## 3 授業の方法

教科書および適宜必要に応じて参考資料の配布をおこなう。

## 4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

## 5 評価の際の特記事項

特になし。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

予習は教科書読み、わからない語句や読み方などを事前に調べておいてください。

## 7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「社会保障制度と柔道整復師の職業倫理」医歯薬出版株式会社

## 8 学生へのメッセージ

近い将来、柔道整復師として仕事に就くうえで重要な基本理念を学習する授業です。不明な点があるときは必ず質問をして、少しずつ理解を深めるように努力しましょう。

9 教員氏名 （ 舘川 大輔 ）

所 属 （ ところ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験 （ 施術所にて柔道整復師として勤務経験あり ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 職業倫理 ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション 授業内容の説明
2	柔道整復師としての倫理（柔道整復師に求められる倫理とは）
3	柔道整復師としての倫理（柔道整復師が果たすべき役割）
4	柔道整復師・施術所に対する信頼
5	柔道整復師としての社会貢献 社会奉仕
6	医療関係者・社会人としての倫理・マナー
7	医療関係者として求められる倫理
8	医療関係者としてのマナー
9	社会人としてのマナー
10	患者との接し方
11	患者の自己決定権の尊重
12	プライバシーの保護とインフォームドコンセント 守秘義務
13	コンプライアンス（法令遵守）
14	保険請求のルールへの遵守 道徳・慣習
15	定期試験
16	試験解説

# シラバス (授業計画書)

科目名 ( 柔道Ⅳ )

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

## 1 授業の内容

柔道整復養成施設指導要領の定める所による、卒業判定基準に達する為の実技能力の習得。

## 2 到達目標

柔道実技審査項目合格。

## 3 授業の方法

講堂に畳を敷き実施する。

## 4 成績評価方法・基準

基本実技試験で評価するが、出席率・授業態度も加味する。

## 5 評価の際の特記事項

授業態度とは、身だしなみ・適切な返事・適切な行動・周りに迷惑をかけないなどを評価に入れる。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

実技試験前の自己練習においては、必ず専任教員に申告して実施すること。特に怪我などに留意し、練習後は清掃を行うこと。

## 7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「柔道」 南江堂出版など、資料を適宜配布する。

## 8 学生へのメッセージ

相手を尊重し、怪我をしない、させないように集中して授業に取り組んで下さい。

## 9 教員氏名 ( 宮田 哲弘 )

所 属 ( ころろ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 )

実務経験の詳細 ( 施術所にて柔道整復師として勤務経験あり )

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

## 科目名（柔道Ⅳ）

回数	授業内容
1	形、約束乱取の練習
2	形から約束乱取の流れ
3	形の練習（浮落、背負投）
4	約束乱取の練習
5	認定実技の流れ
6	形の練習（肩車、浮腰）
7	形の練習（払腰）
8	形から約束乱取
9	礼法、形の練習
10	礼法～形への流れ
11	認定実技の動き方
12	認定実技の練習
13	認定実技の練習（礼法の流れ）
14	認定実技の練習（礼法～形）
15	定期試験
16	試験解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅵ 外傷保存療法の経過及び治癒の判定 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

## 1 授業の内容

柔道整復師として備えるべき外傷性疾患への対応能力の強化のため、外傷の保存療法についての基礎を学習し、外傷の経過及び治療判断に関する外傷の保存療法の適用と限界を理解する。

## 2 到達目標

柔道整復師の業務範囲の理解を深める意味でも保存療法適用の基準と特徴を学びながら、その特性を理解し、好発する損傷を知り、それらの予防法の基礎について学んでいきます。特に、専門基礎分野と専門分野の知識が不可欠となるので、解剖学、生理学、柔道整復理論を学習し、理解を深めるように、日々の学習に取り組んでください。

## 3 授業の方法

座学

## 4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

## 5 評価の際の特記事項

特になし。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

その日に学習した内容は、必ずその日のうちに復習し、理解できているかを確認してください。理解不足な点は質問などで理解力を深める努力をしてください。

## 7 使用教材，教具

全国柔道整復師協会 「柔道整復学・理論編」（改定第7版）南江堂

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編」 改訂第7版

## 8 学生へのメッセージ

2年生までに学んだ各損傷の理論し、外傷の保存療法のポイントを学んでいきます。授業の進行状況を事前に把握しておきましょう。

## 9 教員氏名 （ 赤島 紋花 ）

所 属 （ ころも医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて柔道整復師として勤務経験あり ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 基礎柔道整学Ⅵ 外傷保存療法の経過及び治癒の判定 ）

回数	授業内容
1	前期ガイダンス
2	損傷の診察①（骨折）
3	損傷の診察②（脱臼）
4	損傷の診察③（軟部組織損傷）
5	鑑別診断 合併症の有無を判定 その他の治療法に関する情報の開示
6	説明と同意
7	徒手整復 固定法 整復・固定後の確認
8	医科との連携 固定期間の検討
9	後療法①（物理療法）
10	後療法②（手技療法 運動療法）
11	治癒の判定①（患者環境）
12	治癒の判定②（自己管理）
13	注意事項 指導管理 予後
14	まとめ復習
15	中間試験
16	試験解説
17	肩部に直接的な外力が加わった場合①（肩部）
18	肩部に直接的な外力が加わった場合②（肩峰部）
19	肩部に直接的な外力が加わった場合③（肩甲骨部）
20	肩部に間接的な外力が加わった場合①（肩外転・手掌部打撲）
21	肩部に間接的な外力が加わった場合②（肩内転・肘部打撲）
22	肩部に間接的な外力が加わった場合③（肩外転・肘部打撲）
23	明確な原因がない場合①（野球 バレー）
24	明確な原因がない場合②（テニス 水泳）
25	明確な原因がない場合③（体操 重量物）
26	整形外科における診断の実状
27	まとめ復習 損傷の診察
28	まとめ復習 後療法
29	まとめ復習 治癒の判定
30	まとめ復習 外傷保存療法の経過及び治癒の判定
31	定期試験
32	試験解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅳ 物理療法機器の取扱い ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

## 1 授業の内容

柔道整復師として必要な物理療法の知識と技能を学習する。

## 2 到達目標

臨床に必要な知識・技能を身につける。

## 3 授業の方法

教科書を中心とした講義や実技。及び各項目終了後に課題を行う。

## 4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

## 5 評価の際の特記事項

特になし。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

事前に教科書の予習、直後の復習により知識が定着する。さらに教科書以外の参考書で学習する事によりさらに理解が深まる。

## 7 使用教材，教具

全国柔道整復師協会 「柔道整復学・理論編」（改定第7版）南江堂

## 8 学生へのメッセージ

物理療法は柔道整復業務で大事な所なのでしっかり勉強して下さい。業務範囲を理解し、その使用方法、禁忌をできる限り理解するように、適時質問するようにしてください。

## 9 教員氏名 （ 永田 俊晴 ）

所 属 （ ころろ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて柔道整復師として勤務経験あり ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅳ 物理療法機器の取扱い ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	物理療法の分類
3	物理療法の説明と同意
4	物理療法の禁忌
5	物理療法施行時の患者体位や患肢の肢位
6	物理療法の刺激強度
7	物理療法の変更
8	物理療法の指導管理
9	物理療法機器の安全対策
10	電気療法（低周波電気刺激療法）
11	電気療法（中周波電流療法）
12	変換熱療法（超音波療法）
13	伝導熱療法（ホットパック療法）
14	前期まとめ
15	中間試験
16	試験解説
17	伝導熱療法（パラフィン浴療法・水治療法）
18	輻射熱療法
19	変換熱療法（超短波療法）
20	変換熱療法（極超短波療法）
21	変換熱療法（超音波療法）
22	光線療法
23	寒冷療法（伝導冷却法）
24	寒冷療法（対流冷却法）
25	寒冷療法（気化冷却法）
26	牽引療法（頸椎介達牽引）
27	牽引療法（腰椎介達牽引）
28	間欠的圧迫法
29	後期の復習（1） 電気・温熱療法
30	後期の復習（2） 寒冷・牽引・間欠療法
31	定期試験
32	試験解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅴ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

## 1 授業の内容

頭部、体幹、上肢の骨折各論を復習し、特に臨床的に重要な発生機序、診察法、整復法、固定法の理解を深める。

## 2 到達目標

各損傷の特徴を理解し、診察法を基本に、損傷を明確に評価できる根拠を症状から読み取れる応用力を身に着けることを目標とする。

## 3 授業の方法

教科書を中心とした講義や実技。及び各項目終了後に課題を行う。

## 4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

## 5 評価の際の特記事項

特になし。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

事前に教科書の予習、直後の復習により知識が定着する。さらに教科書以外の参考書で学習する事によりさらに理解が深まる。

## 7 使用教材， 教具

全国柔道整復師協会 「柔道整復学・理論編」（改定第7版）南江堂

## 8 学生へのメッセージ

2年生までに学んだ各損傷の理論し、外傷の保存療法のポイントを学んでいきます。授業の進行状況を事前に把握しておきましょう。

## 9 教員氏名 （ 松瀬 慎一 ）

所 属 （ ころろ医療福祉専門学校非常勤講師 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて柔道整復師として勤務経験あり ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 ( 臨床柔道整復学Ⅴ )

回数	授業内容
1	頭蓋骨骨折
2	顔面頭蓋骨骨折
3	頸椎骨折
4	胸椎骨折
5	腰椎骨折
6	肋骨骨折
7	胸骨骨折
8	鎖骨骨折
9	肩甲骨骨折
10	上腕骨近位部骨折
11	上腕骨骨幹部骨折
12	上腕骨遠位部骨折
13	体幹部骨折復習
14	鎖骨～上腕骨骨折復習
15	中間試験
16	試験解説
17	前腕骨近位部骨折
18	前腕骨骨幹部骨折
19	前腕骨遠位端部骨折
20	手根骨部骨折
21	中手骨部骨折
22	指骨骨折
23	骨盤骨骨折
24	大腿骨骨折
25	膝蓋骨骨折
26	下腿骨骨折
27	足部骨折
28	趾骨骨折
29	前腕部～指骨骨折復習
30	下肢骨骨折復習
31	定期試験
32	試験解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅵ 柔道整復術の臨床的判定・医用画像 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

## 1 授業の内容

柔道整復師に必要な施術の適応判断の知識と、医用画像の理解を深め、担当教員の実務経験を基にした、患者への接し方、所見の取り方、画像の運用方法、治療の説明を行い、実践的な知識力を身に付ける。

## 2 到達目標

柔道整復師として施術の適応、医用画像の理解ができるようになる。

## 3 授業の方法

教科書を用いた授業を行う。

## 4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

## 5 評価の際の特記事項

特になし。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿った教科書の復習を行うこと。

## 7 使用教材，教具

全国柔道整復協会監修「施術の適応と医用画像の理解」南江堂

## 8 学生へのメッセージ

柔道整復師として働くために必要な知識になりますので、理解を深めてください。

## 9 教員氏名（ 陣内 和幸 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて柔道整復師として勤務経験あり ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床柔道整復学VI 柔道整復術の臨床的判定・医用画像 ）

回数	授業内容
1	柔道整復術の適否
2	損傷に類似する症状を示す疾患（内臓疾患、腰痛）
3	損傷に類似する症状を示す疾患（化膿性炎症）
4	血流障害
5	末梢神経損傷
6	脱臼骨折
7	外出血を伴う損傷（判断と対応）
8	外出血を伴う損傷（骨折）
9	外出血を伴う損傷（脱臼、軟部組織損傷）
10	病的骨折および脱臼
11	意識障害
12	脊髄症状（判断と対応、骨折）
13	脊髄症状のある損傷（脱臼、軟部組織損傷）
14	前期まとめ
15	中間試験
16	試験解説
17	呼吸運動障害
18	内臓損傷の合併が疑われる損傷
19	高エネルギー外傷
20	医用画像とは、放射線の概要
21	主要な部位の一般撮影法
22	画像のデジタル化
23	CT の概要
24	CT 撮影の実際
25	MRI の概要
26	MR 検査の手順
27	超音波画像装置の概要
28	運動器系の画像
29	臨床画像の実際
30	後期まとめ
31	定期試験
32	試験解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅶ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

## 1 授業の内容

柔道整復学の総論および下肢の骨折を復習し、その詳細を徹底して理解する。

## 2 到達目標

総論の内容は、各損傷を理解するうえで土台となるものであり、総論が理解できていないと、各損傷の理解度が足らなくなる。総論を詳細にわたる範囲で学びなおし、理解度を深めることを目標とする。

## 3 授業の方法

演習問題を解きながら、復習を行っていく。

## 4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

## 5 評価の際の特記事項

特になし。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

毎回見直しをして、自分の理解でいていない箇所をよく知るようにしてください。復習の徹底が学習成果として表れることを自覚してください。

## 7 使用教材，教具

全国柔道整復師協会 「柔道整復学・理論編」（改定第7版）南江

## 8 学生へのメッセージ

国家試験合格も視野に入れ、自己の学習状況を常に分析し、学習計画を立て、それに沿った自己学習を心がけてください。

## 9 教員氏名 （ 伊藤 元太郎 / 舘川 大輔 ）

所 属 （ ころも医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて柔道整復師として勤務経験あり ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅶ ）

回数	授業内容
1	損傷時に加わる力、痛みの基礎
2	骨の損傷① 分類
3	骨の損傷② 症状 合併症
4	骨の損傷③ 小児骨折 高齢者骨折
5	骨の損傷④ 癒合日数 治癒経過 予後
6	関節損傷① 概説 分類
7	関節損傷② 損傷組織 類症
8	関節損傷③ 脱臼
9	筋損傷
10	腱損傷
11	末梢神経損傷
12	診察① 注意点 概説 時期による分類 治療計画作成
13	診察② 施術録の扱いと記載の実際
14	前期まとめ
15	中間試験
16	試験解説
17	治療法①
18	骨盤骨骨折①（単独骨折）
19	骨盤骨骨折②（骨輪骨折）
20	大腿骨骨折①（近位部）
21	大腿骨骨折②（骨幹部 遠位部）
22	膝蓋骨骨折
23	下腿骨骨折①（近位部）
24	下腿骨骨折②（骨幹部 遠位部）
25	下腿骨遠位端部骨折
26	足関節脱臼骨折②
27	足根骨骨折①（距骨 踵骨）
28	足根骨骨折②（足根骨）
29	中足骨骨折 趾骨骨折
30	後期まとめ
31	定期試験
32	試験解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅷ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

## 1 授業の内容

柔道整復術を臨床的に実践するための基本的理念を、シミュレーションを交えながら学習していく。

## 2 到達目標

すでに学んだ各損傷の理論を実際に施術に活かせるように、その基礎について更なる理解力を身につける事を目標とする。

## 3 授業の方法

板書を中心にグループワークも取り入れて行う。

## 4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

## 5 評価の際の特記事項

特になし。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

復習を徹底して実施し、自己の理解度を分析し、学習方法を確立していく。

## 7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）南江堂

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・実技編」（改訂第2版）南江堂

## 8 学生へのメッセージ

国家試験合格も視野に入れ、自己学習に活かせるよう授業に集中してください。

## 9 教員氏名 （ 赤島 紋花 ）

所 属 （ ころろ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて柔道整復師として勤務経験あり ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅷ ）

回数	授業内容
1	柔道整復業務
2	骨折の施術
3	脱臼の施術
4	軟部組織の施術
5	損傷の診察
6	鑑別診断
7	合併症の有無の判定
8	その他の治療法に関する情報の提示
9	説明と同意
10	徒手整復
11	固定法
12	整復・固定の確認
13	医科との連携
14	固定期間の検討
15	中間試験
16	試験解説
17	後療法①（用量）
18	後療法②（患者の準備）
19	指導管理
20	骨折各論 体幹
21	上肢骨折（鎖骨～上腕骨）
22	上肢骨折（前腕骨～指骨）
23	下肢骨折（骨盤～膝蓋骨）
24	下肢骨折（下腿骨～趾骨）
25	上肢脱臼
26	下肢脱臼
27	体幹部軟部組織損傷
28	上肢軟部組織損傷
29	下肢軟部組織損傷
30	まとめ
31	定期試験
32	試験解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅸ 機能訓練指導 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

## 1 授業の内容

柔道整復師が携わる機能訓練指導について、その内容を理解し実践につながる基礎を学ぶ。

## 2 到達目標

高齢者の身体的・心理的特徴を理解し、特有の疾病を知ることが目標とする。併せて介護について学ぶことで機能訓練指導を具体的にイメージでき、機能訓練指導員として柔道整復師が介護の分野における位置づけを理解する。

## 3 授業の方法

教科書を用いた授業を行う。

## 4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

## 5 評価の際の特記事項

特になし。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業時間が45分と短いので、予め教科書を読んでおくこと。復習はその日のうちに学習した内容をもう一度見直し、不明な点を不明なままにしないようにする。

## 7 使用教材，教具

公益社団法人全国柔道整復学校協会監修

「柔道整復師と機能訓練指導 — 機能訓練指導員養成テキスト」

## 8 学生へのメッセージ

柔道整復師が介護の分野で業務に携わるためには、高齢者の特徴や介護保険についての知識を身につけることが重要です。また、地域医療連携を実現させるためにも、きちんと学習してください。

## 9 教員氏名（ 舘川 大輔 ）

所 属 （ ころこ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて柔道整復師として勤務経験あり ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅸ 機能訓練指導 ）

回数	授業内容
1	柔道整復師と介護保険
2	人間の成長と発達の基礎的理解
3	老年期の発達と成熟
4	老化に伴う心と身体の変化と日常生活
5	エイジング理論
6	高齢者と健康
7	認知症の定義
8	認知症を取り巻く状況
9	医学的側面からみた認知症の基礎
10	認知症にともなう心と体の変化と日常生活
11	連携と協働
12	家族への支援
13	認知症予防
14	前期まとめ
15	中間試験
16	試験解説
17	介護保険制度
18	要介護度
19	要介護度認定
20	介護保険の給付（介護サービス）
21	介護保険の給付（介護関連職種）
22	介護の過程
23	高齢者介護
24	ICF
25	介護予防と生活機能の向上
26	介護予防・日常生活支援総合事業
27	ロコモティブシンドローム
28	高齢者自立支援の理解
29	機能訓練指導員と機能訓練①
30	機能訓練で提供する運動と要点
31	定期試験
32	試験解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅹ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

## 1 授業の内容

柔道整復術を臨床的に実践するための指導管理及び外傷予防を、シミュレーションを交えながら学習していく。

## 2 到達目標

すでに学んだ各損傷の理論を実際に施術に活かせるように、その指導管理及び外傷予防について更なる理解力を身につける事を目標とする。

## 3 授業の方法

板書を中心にグループワークも取り入れて行う。

## 4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

## 5 評価の際の特記事項

特になし。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

復習を徹底して実施し、自己の理解度を分析し、学習方法を確立していく。

## 7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）南江堂

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・実技編」（改訂第2版）南江堂

## 8 学生へのメッセージ

柔道整復師として必要な知識になりますので、自己学習に活かせるように授業に集中してください。

## 9 教員氏名 （ 舘川 大輔 ）

所 属 （ ころろ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて柔道整復師として勤務あり ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床柔道整復学X ）

回数	授業内容
1	指導管理
2	日常生活動作 環境の指導管理
3	姿勢、肢位、歩行の指導管理
4	衣服 食事動作 入浴 清潔保持・保清 トイレの指導管理
5	体調把握の指導管理
6	施術所外でできる運動の指導管理
7	住宅環境、就労環境に対する指導管理
8	スポーツ活動の指導管理
9	自己管理に対する指導
10	外傷予防概論
11	運動機能向上と教育活動
12	身体の基礎的状态の評価と対応
13	健康と体調管理
14	早期発見・早期治療
15	定期試験
16	試験解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学XI ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

## 1 授業の内容

柔道整復師が臨床上接することの多い各種軟部組織損傷の詳細な内容を学習する。

## 2 到達目標

2年次に学習した内容を振り返り、さらに詳細な臨床症状、治療法、後療法の理論を学習し、習得する。

## 3 授業の方法

板書を基本に進める。

## 4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

## 5 評価の際の特記事項

特になし。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業時間が45分と短いので、予め教科書を読んでおくこと。復習は、その日のうちに学習した内容をもう一度見直し、不明な点を不明なままにしないようにする。

## 7 使用教材，教具

全国柔道整復師協会 「柔道整復学・理論編」（改定第7版）南江堂

## 8 学生へのメッセージ

柔道整復師の治療法を体得するためには、外傷の基礎をしっかりと習得することです。理論を理解することで、治療の技術習得に繋がるので、積極的に学習してください。

## 9 教員氏名（永田 俊晴）

所属（こころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科）

実務経験の詳細（施術所にて柔道整復師として勤務経験あり）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅺ ）

回数	授業内容
1	頭部・顔面部の軟部組織損傷
2	体幹部の軟部組織損傷
3	肩関節部、上腕部の軟部組織損傷
4	肘関節部、前腕部の軟部組織損傷
5	手関節の軟部組織損傷
6	手部・指部の軟部組織損傷
7	股関節、大腿部の軟部組織損傷
8	膝関節部の軟部組織損傷
9	下腿部の軟部組織損傷
10	足関節部の軟部組織損傷
11	足・趾部の軟部組織損傷
12	軟部組織損傷の徒手検査法①（体幹）
13	軟部組織損傷の徒手検査法②（上肢）
14	軟部組織損傷の徒手検査法③（下肢）
15	定期試験
16	試験解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅳ 高齢者の外傷予防 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

## 1 授業の内容

高齢者の身体の生理的・機能的特徴を理解し、高齢者に発生頻度の高い外傷について、その発生原因と予防について学ぶ。

## 2 到達目標

柔道整復術を基本に、機能訓練指導やリハビリテーションからみた高齢者の外傷予防の知識を修得する。

## 3 授業の方法

実習室において実技実習を行い、施術法を体得する。

## 4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

## 5 評価の際の特記事項

特になし。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

実習で学んだ実技内容を必ず復習する時間をつくること。繰り返しの実技演習が技術を修得す上で重要なことを認識すること。

## 7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編第7版」南江堂

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復師と機能訓練指導」南江堂

## 8 学生へのメッセージ

柔道整復師が高齢者に関わる施術について、高齢者の身体的特徴や外傷を学び、その外傷予防の知識を身につけてください。白衣は常に清潔にしましょう。爪は短くし、装飾品（指輪、ピアスなど）は全て外してください。女子は髪を後ろにまとめてください。

## 9 教員氏名 （ 舘川 大輔 ）

所 属 （ ころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて柔道整復師として勤務経験あり ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 柔道整復実技Ⅳ 高齢者の外傷予防 ）

回数	授業内容
1	高齢者の身体的特徴：生理学的特徴
2	ロコモティブシンドロームとは
3	ロコモティブシンドロームと運動器不安定症との相違，ロコチェック
4	ロコモーショントレーニング
5	高齢者の転倒予防
6	機能訓練指導員，介護予防・機能訓練指導員認定柔道整復師
7	リハビリテーションと機能訓練の相違
8	機能訓練の対象となる障害の捉え方
9	高齢者の疾患の特徴
10	高齢者に多い外傷
11	高齢者の外傷予防
12	高齢者への施術の限界
13	機能訓練で提供する運動と要点
14	まとめ
15	定期試験
16	試験解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅷ 機能訓練指導実技 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

## 1 授業の内容

機能訓練指導で提供する運動と要点を理解し、実践できる基礎を学ぶ。

## 2 到達目標

機能訓練指導を行う上で、高齢者の生理学的特徴を理解し、それぞれの心身状態に沿った内容の運動指導が実施できることを目標とする。

## 3 授業の方法

相互に施術者と患者になりながら運動療法を行う。

## 4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

## 5 評価の際の特記事項

特になし。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進行計画を参考に事前に内容を確認・予習をする。実習で学んだ実技内容を必ず復習する時間をつくること。繰り返しの実技演習が技術を修得す上で重要なことを認識すること。

## 7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復師と機能訓練」南江堂

全国柔道整復学校協会監修「競技者の外傷予防」医歯薬出版

## 8 学生へのメッセージ

今までに学んだ各損傷の理論を応用し、身体機能回復の基礎技術を機能訓練に置き換え、その技法を身につけましょう。臨床力を身に付けるために、医療面接、患者への対応なども実践できるよう、ロールプレイをとおして学びましょう。理解の足りない個所があれば、いつでも質問するように心がけてください。白衣は常に清潔を心掛けてください。爪は短くし、装飾品（指輪、ピアスなど）は全て外してください。女子は髪を後ろにまとめるようにしてください。

## 9 教員氏名（ 永田 俊晴 ）

所 属（ ところ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて柔道整復師として勤務経験あり ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 柔道整復実技Ⅷ 機能訓練指導実技 ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション 機能訓練指導員と機能訓練
2	柔道整復師が行う機能訓練指導の特性
3	機能訓練の評価
4	個別機能訓練実施計画書の作成
5	機能訓練指導員の保持すべき知識・能力 リスクマネジメント
6	機能訓練指導員の保持すべき知識・能力 疾患・症候とリスク
7	拘縮のある利用者の機能訓練
8	機能訓練で提供する運動と要点 機能訓練の手順
9	プログラムの実施
10	器具を用いない運動 背臥位で行う軽運動
11	運動開始前の予備運動
12	立位で行う上肢・体幹のストレッチング
13	立位で行う下肢のストレッチング
14	まとめ
15	定期試験
16	試験解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅸ スポーツコンディショニング実技 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

## 1 授業の内容

軟部組織損傷について、各損傷を理解しながら実際の施術方法を実技で学ぶ。特にスポーツコンディショニングに焦点を当てて体験する。

## 2 到達目標

各損傷の発生機序と臨床症状を理解し、その診察法の手順、検査法の実際を実技実習において基礎的手法を身につけることを目標とする。

## 3 授業の方法

ロールプレイを基本として実施する。

## 4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

認定実技審査合格を単位取得の条件とする

## 5 評価の際の特記事項

特になし。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進行計画を参考に事前に内容を確認・予習をする。実習で学んだ実技内容を必ず復習する時間をつくること。繰り返しの実技演習が技術を修得す上で重要なことを認識すること。

## 7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・実技編」（改定第2版）南江堂

## 8 学生へのメッセージ

今まで学んだ各損傷の理論を思い出し、国家試験受験。認定実技審査受験も視野に入れ、診察法・整復法・固定法の基礎技術を身に付けましょう。臨床力を身に付けるため、医療面接、患者への対応なども実践できるよう、ロールプレイングをとおして学びましょう。

白衣は常に清潔を心掛けてください。爪は短くし、装飾品（指輪、ピアスなど）は全て外してください。女子は髪を後ろにまとめるようにしてください。

## 9 教員氏名（永田 俊晴）

所属（こころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科）

実務経験の詳細（施術所にて柔道整復師として勤務経験あり）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 ( 柔道整復実技Ⅸ スポーツコンディショニング実技 )

回数	授業内容
1	肩腱板損傷 診察法
2	肩腱板損傷 検査法
3	上腕二頭筋長頭腱損傷 診察法
4	上腕二頭筋長頭腱損傷 検査法
5	ハムストリングス肉ばなれ損傷 診察法
6	ハムストリングス肉ばなれ損傷 検査法
7	大腿四頭筋打撲損傷 診察法
8	大腿四頭筋打撲損傷 検査法
9	膝側副靭帯損傷 診察法
10	膝側副靭帯損傷 検査法
11	十字靭帯損傷 診察法
12	十字靭帯損傷 検査法
13	半月板損傷 診察法
14	半月板損傷 検査法
15	中間試験
16	試験解説
17	下腿三頭筋肉ばなれ損傷 診察法
18	下腿三頭筋肉ばなれ損傷 検査法
19	足外側靭帯損傷 診察法
20	足外側靭帯損傷 検査法
21	下腿骨骨幹部骨折 固定法 (注意点)
22	下腿骨骨幹部骨折 固定法 (流れ)
23	アキレス腱断裂 固定法 (長下肢装具)
24	アキレス腱断裂 固定法 (短下肢装具)
25	足外側靭帯損傷 固定法 (局所副子)
26	膝内側側副靭帯損傷 固定法 (テーピング)
27	膝内側側副靭帯損傷 固定法 (ギプスシャーレ)
28	足外側靭帯損傷 固定法 (バスケットウィーブテープ)
29	足外側靭帯損傷 固定法 (フィギュアエイト・ヒールロックテープ)
30	まとめ
31	定期試験
32	試験解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅹ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

## 1 授業の内容

柔道整復の施術の基礎を学び、実践しながら臨床への対応を理解する。柔道整復師の日常業務である療養費の取扱いについても学ぶ。

## 2 到達目標

柔道整復施術の手順をロールプレイを通して体感し、理論に一致しているか確認しながら実技を修得することを目標とする。

## 3 授業の方法

ロールプレイを基本とする。

## 4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

## 5 評価の際の特記事項

特になし。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

その日に実施した内容をその日のうちに再度シミュレーションして復習する。

## 7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）南江堂

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・実技編（改訂第2班）南江堂

全国柔道整復学校協会監修 「社会保障制度と柔道整復師の職業倫理」医歯薬出版

## 8 学生へのメッセージ

実際の臨床現場と思い真剣に取り組んでください。

## 9 教員氏名 （ 赤島 紋花 ）

所 属 （ ころこ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて柔道整復師として勤務経験あり ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 柔道整復実技X ）

回数	授業内容
1	診察法の実際
2	問診・視診・触診の方法
3	医療コミュニケーションの実際
4	機能的診察
5	鑑別診断～説明と同意
6	徒手整復 固定法 整復・固定後の確認
7	医科との連携～後療法
8	経過
9	物理療法、手技療法、運動療法
10	治療の判定
11	診察
12	整復法
13	固定法
14	後療法
15	中間試験
16	試験解説
17	試験解説
18	医療面接の実際（問診）
19	医療面接の実際（視診）
20	医療面接の実際（触診）
21	医療面接の実際（検査法）
22	医療面接の実際（病態説明）
23	医療面接の実際（予後の説明）
24	医療面接の実際（説明と同意）
25	医療面接の実際（施術録の記載）
26	医療面接の実際（申請書の記載）
27	医療面接の実際（療養費の請求方法）
28	医療面接の実際（受領委任の説明）
29	医療面接の実際（償還払いの説明）
30	まとめ
31	定期試験
32	試験解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技XI ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

## 1 授業の内容

各損傷の応急手当の手順を実技実習において学ぶ。

## 2 到達目標

各損傷の評価法を通して実際の施術はもとより、合併症なども視野に入れた応急手当の方法を体得すことを目標とする。

## 3 授業の方法

ロールプレイを中心に実施する。

## 4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

## 5 評価の際の特記事項

特になし。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

各外傷の発生機序や臨床症状をしっかりと頭に入れた状態で実技に臨んでもらいたいので、予習を重点に自己学習を欠かさないでほしい。

## 7 使用教材，教具

全国柔道整復協会監修「施術の適応と医用画像の理解」南江堂

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・実技編（改訂第2班）南江堂

## 8 学生へのメッセージ

理解の足りない個所があればいつでも質問するように心がけてください。白衣は常に清潔を心掛けてください。爪は短くし、装飾品（指輪、ピアスなど）は全て外してください。女子は髪を後ろにまとめるようにしてください。

## 9 教員氏名（ 伊藤 元太郎 / 永田 俊晴 ）

所 属 （ ころろ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて柔道整復師として勤務経験あり ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（柔道整復実技Ⅺ）

回数	授業内容
1	頭部・顔面部の損傷（骨折）
2	頭部・顔面部の損傷（脱臼 軟部組織損傷）
3	頸部の損傷（骨折）
4	頸部の損傷（脱臼 軟部組織損傷）
5	胸・背部の損傷（骨折）
6	胸・背部の損傷（脱臼 軟部組織損傷）
7	腰部の損傷（骨折）
8	腰部の損傷（脱臼 軟部組織損傷）
9	鎖骨部の損傷（骨折）
10	鎖骨部の損傷（脱臼 軟部組織損傷）
11	肩関節部の損傷（骨折）
12	肩関節部の損傷（脱臼）
13	肩関節部の損傷（軟部組織）
14	肩関節部の損傷（まとめ）
15	中間試験（前期）
16	試験解説
17	上腕部の損傷（骨折）
18	上腕部の損傷（脱臼 軟部組織損傷）
19	肘関節部の損傷（骨折）
20	肘関節部の損傷（脱臼 軟部組織損傷）
21	前腕部の損傷（骨折：橈骨）
22	前腕部の損傷（骨折：尺骨）
23	前腕部の損傷（脱臼）
24	前腕部の損傷（軟部組織損傷）
25	手関節部の損傷（骨折）
26	手関節部の損傷（脱臼 軟部組織損傷）
27	手・指部の損傷（骨折：中手骨）
28	手・指部の損傷（骨折：指骨）
29	手・指部の損傷（脱臼）
30	手・指部の損傷（軟部組織損傷）
31	中間試験（集中講義）
32	試験解説

33	骨盤部の損傷
34	股関節部の損傷
35	大腿部の損傷
36	膝関節部の損傷（骨折 脱臼）
37	膝関節部の損傷（軟部組織損傷）
38	下腿部の損傷
39	足関節部の損傷
40	足・足趾部の損傷
41	上肢骨折の復習（肩甲骨～上腕骨）
42	上肢骨折の復習（前腕骨～指骨）
43	下肢骨折の復習（骨盤～膝蓋骨）
44	下肢骨折の復習（下腿骨～趾骨）
45	上肢脱臼の復習（肩関節）
46	上肢脱臼の復習（肘関節）
47	上肢脱臼の復習（手関節）
48	上肢脱臼の復習（指関節）
49	下肢脱臼の復習（股・膝関節）
50	下肢脱臼の復習（足・趾関節）
51	上肢軟部組織損傷の復習（肩部）
52	上肢軟部組織損傷の復習（肘部）
53	上肢軟部組織損傷の復習（上腕・前腕部）
54	上肢軟部組織損傷の復習（手・指部）
55	下肢軟部組織損傷の復習（股・大腿部）
56	下肢軟部組織損傷の復習（膝部）
57	下肢軟部組織損傷の復習（下腿部）
58	下肢軟部組織損傷の復習（足・趾部）
59	頭部の損傷
60	体幹の損傷
61	鑑別診断（上肢）
62	鑑別診断（下肢）
63	定期試験
64	試験解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床実習Ⅳ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

## 1 授業の内容

臨床実習施設（附属施術所、臨床実習施設等）において、見学実習を主体とした臨床実習を行う。

## 2 到達目標

臨床現場における適切な行動・態度、そして責任感を修得することを目標とする。  
施術および施術所の運営についても見学する。

## 3 授業の方法

各臨床実習施設の臨床実習指導者の指示のもと、臨床現場に即した行動を実践する。  
実際の施術の現場や、関連する仕事の様子を見学する。

一連の業務内容を理解して柔道整復師としての基本的姿勢を身に付ける。臨床実習施設へは各自が公的交通手段を利用し、開始時間の 20 分前には到着し 10 分前には着替えを終了しなければならない。

## 4 成績評価方法・基準

出席、実習記録レポート等の提出物、各指導者による評価を総合して最終評価とする。

## 5 評価の際の特記事項

毎回のレポート提出は評価の基準となる。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

毎日、臨床実習に必要な基礎知識（専門基礎科目、専門科目）を学習する。

## 7 使用教材，教具

「実習の手引き」

## 8 学生へのメッセージ

資格取得後、実務を実践することを念頭に置いて体験、学習しましょう。時間厳守、コンプライアンスを実践し、自己責任を持って行動してください。「実習の手引き」に記載されている注意事項を厳守してください。

体調不良や交通機関のトラブルなどで欠席、遅刻する場合、必ず担当教員に連絡をしてください。

## 9 教員氏名（ 舘川 大輔 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 柔道整復科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて柔道整復師としての実務経験あり ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 ( 臨床実習Ⅳ )

回数	授業内容
	5月～8月の間で45時間の臨床実習を行う。

科目名 ( 運動学 )

回数	授業内容
33	四肢と体幹の運動 A 上肢帯
34	B 肩関節
35	C 肘関節
36	D ①手関節
37	D ②手
38	E 股関節
39	F 膝関節
40	G ①足関節
41	G ②足部
42	H 体幹と脊柱
43	I 頸椎
44	J 胸椎と胸郭
45	K 腰椎、仙椎および骨盤
46	L 顔面および頭部
47	中間試験
48	試験解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ リハビリテーション医学Ⅰ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

## 1 授業の内容

リハビリテーションの概要と、各疾患における考え方について概説する。

## 2 到達目標

リハビリテーションの理念と各疾患に対する考え方を理解することが出来る。

## 3 授業の方法

PC プロジェクタを利用したパワーポイントによる講義のほか、講義毎に小テストを実施する。

## 4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

## 5 評価の際の特記事項

特になし。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って、事前に教科書の予習・復習をしてくること。

## 7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「リハビリテーション医学」（改訂第4版）南江堂

## 8 学生へのメッセージ

柔道整復を学ぶ上で馴染みが薄いと思われるリハビリテーションの概念ですが、患者様のよりよい日常生活や高いQOLの獲得に向けて、一緒にその概念や考え方を学びましょう。

## 9 教員氏名（ 三根 立己 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

実務経験の詳細（ 病院にて理学療法士として勤務経験あり ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（リハビリテーション医学Ⅰ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション、リハビリテーションの理念
2	リハビリテーションの対象と障害者の実態
3	障害の階層とアプローチ
4	リハビリテーション評価学
5	リハビリテーション障害学と治療学
6	リハビリテーション医学の関連職種
7	リハビリテーション治療技術
8	運動器のリハビリテーション A 骨折の治療と後療法
9	B 骨粗鬆症 C 捻挫
10	D 上肢損傷後症候群 E 下肢損傷後症候群
11	F 頸肩腕症候群の病態 G 腰椎症
12	H 肋骨骨折 I アキレス腱断裂
13	リハビリテーションと福祉
14	障害者スポーツ
15	定期試験
16	試験解説

# シラバス (授業計画書)

科目名 ( リハビリテーション医学Ⅱ )

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

## 1 授業の内容

高齢者のリハビリテーションの概要と各疾患における考え方、機能回復方法について、機能訓練指導を通して概説する。

## 2 到達目標

高齢者のリハビリテーションの理念と各疾患に対する考え方を理解することができ、柔道整復師が機能訓練指導を通じて、具体的に運動機能の改善、回復方法を実践できるように、その理論を習得することを目標とする。

## 3 授業の方法

PC プロジェクタを利用したパワーポイントによる講義を中心に実施する。

## 4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

## 5 評価の際の特記事項

特になし。

## 6 授業時間外学習 (予習・復習等) の具体的内容

授業進度計画に沿って、事前に教科書の予習・復習をしてくること。

## 7 使用教材, 教具

全国柔道整復学校協会監修「リハビリテーション医学」(改訂第4版) 南江堂

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復師と機能訓練指導」 南江堂

## 8 学生へのメッセージ

45分の授業なので、授業開始時間を厳守してください。柔道整復を学ぶ上で高齢者のリハビリテーションの概念を理解しなければなりません。そして高齢の患者様のよりよい日常生活や高いQOLの獲得に向けての実践指導方法を獲得するために、貪欲に学習に邁進してください。

## 9 教員氏名 ( 伊藤 元太郎 )

所 属 ( ころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 )

実務経験の詳細 ( 施術所にて柔道整復師として勤務経験あり )

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（リハビリテーション医学Ⅱ）

回数	授業内容
1	高齢者のリハビリテーション 平均寿命と健康寿命
2	加齢と老化について・老年症候群
3	フレイル ロコモティブシンドローム・サルコペニア
4	高齢者を取りまく医療制度
5	認知症の理解
6	高齢者虐待 要介護の予防
7	リハビリテーション前置主義 地域リハビリテーション
8	パーキンソン病のリハビリテーション
9	脳卒中のリハビリテーション
10	高齢者介護とICF A 高齢者介護 B ICF
11	C リハビリテーションとICF D 機能訓練とICF
12	ロコモティブシンドローム
13	高齢者自立支援の理解
14	高齢者の運動機能維持
15	定期試験
16	試験解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道Ⅱ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

## 1 授業の内容

1年時に修得した受身、投技を復習すると共に、相手を尊重し、認定実技を踏まえて礼法・受身・形・投技を習得する。

## 2 到達目標

全講義が終了した時点で、各々の身体能力に合った投技を工夫できるようにする。

## 3 授業の方法

講堂に畳を敷き実施する。

## 4 成績評価方法・基準

基本実技試験で評価するが、出席率・授業態度も加味する。

## 5 評価の際の特記事項

授業態度とは、身だしなみ・適切な返事・適切な行動・周りに迷惑をかけないなどを評価に入れる。（認定実技要綱より）

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

実技試験前の自己練習においては、必ず専任教員に申告して実施すること。特に怪我などに留意し、練習後は清掃を行うこと。

## 7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「柔道」 南江堂出版など、資料を適宜配布する。

## 8 学生へのメッセージ

相手を尊重し、怪我をしない、させないように集中して授業に取り組んで下さい。

## 9 教員氏名（ 宮田 哲弘 ）

所 属 （ ころろ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて柔道整復師として勤務経験あり ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

## 科目名（ 柔道Ⅱ ）

回数	授業内容
1	受身、形の復習
2	浮落、背負投
3	肩車
4	浮腰
5	払腰
6	内股
7	送足払
8	釣込腰
9	支釣込足
10	約束乱取の練習
11	礼法～形への流れ
12	技の練習（背負投～大内刈）
13	技の練習（小内刈～背負投）
14	技の練習（小内刈～大内刈）
15	定期試験
16	試験解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道Ⅲ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

## 1 授業の内容

相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いての攻防を習得。

## 2 到達目標

自己の責任を果たし仲間と協力して、基本動作、対人的技能を身につける。

## 3 授業の方法

講堂に畳を敷き実施する。

## 4 成績評価方法・基準

基本実技試験で評価するが、出席率・授業態度も加味する。

## 5 評価の際の特記事項

授業態度とは、身だしなみ・適切な返事・適切な行動・周りに迷惑をかけるななどを評価に入れる。（認定実技要綱より）

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

実技試験前の自己練習においては、必ず専任教員に申告して実施すること。特に怪我などに留意し、練習後は清掃を行うこと。

## 7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「柔道」 南江堂出版など、資料を適宜配布する。

## 8 学生へのメッセージ

柔道の特性に関心を持ち、積極的に取り組むとともに、相手を尊重し相手の能力を考慮し、怪我をしない、させないように集中して授業に取り組んで下さい。

## 9 教員氏名 （ 宮田 哲弘 ）

所 属 （ ころろ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて柔道整復師として勤務経験あり ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

## 科目名（柔道Ⅲ）

回数	授業内容
1	前期の復習
2	形（手技）
3	形（腰技）
4	形（足技）
5	約束乱取の復習（浮落）
6	約束乱取の復習（背負投）
7	約束乱取の復習（浮腰）
8	約束乱取の復習（払腰）
9	約束乱取の復習（内股）
10	約束乱取の復習（送足払）
11	約束乱取の復習（釣込腰）
12	約束乱取の復習（支釣込足）
13	礼法～形
14	礼法～形～約束乱取の練習
15	定期試験
16	試験解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 社会保障制度 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

## 1 授業の内容

日本の社会保障制度の概要を学び、併せて柔道整復師の保険診療の基礎を学ぶ。

## 2 到達目標

社会保障制度の内容、社会保障の現状、日本の保健医療の内容を理解する。また、柔道整復師が取り扱う各種保険の種類やの受領委任制度を理解する。

## 3 授業の方法

教科書および適宜必要に応じて参考資料の配布を行う。

## 4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

## 5 評価の際の特記事項

特になし。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って、事前に教科書の予習をしてくる。復習は、その日のうちに。

## 7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「社会保障制度と柔道整復師の職業倫理」医歯薬出版株式会社

## 8 学生へのメッセージ

医療関係者は社会保障制度についての知識がなければなりません。特に、柔道整復師は健康保険等を利用して受診する患者に対して適切な対応が求められます。社会保障制度の基礎的な知識を学ぶ大切な授業なので、不明な点は必ず質問して、理解できるように努力しましょう。

## 9 教員氏名（ 舘川 大輔 ）

所 属 （ ところ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細 （ 施術所にて柔道整復師として勤務経験あり ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 社会保障制度 ）

回数	授業内容
1	社会保障とは
2	社会保障制度の概要
3	高齢者のすすむ人口構造
4	増加する社会保障給付と負担
5	社会保障制度改革の全体像
6	高齢者保険福祉、介護保険制度、子育て支援施策
7	保健医療①（医療需要の変化、増大する国民医療費）
8	保健医療②（医療従事者の確保と質の向上、医療保険制度の概要）
9	保険診療（保険診療）
10	保険診療（自賠責、労災）
11	保険診療（自由診療）
12	受領委任制度とは
13	柔道整復師法
14	まとめ
15	定期試験
16	試験解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅰ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

## 1 授業の内容

上肢、下肢の軟部組織損傷の各論を学習する。

## 2 到達目標

各損傷の発生機序、分類、臨床症状を理解し、柔道整復師の業務範囲内外を明確にすることで、臨床力の基礎を修得することを目標とする。

## 3 授業の方法

教科書を用いた講義

## 4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

## 5 評価の際の特記事項

特になし。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿った事前の教科書の予習、復習を行うこと。

## 7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会編「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）南江堂

## 8 学生へのメッセージ

軟部組織損傷は整骨院業務において必ず遭遇する疾患になります。スポーツ分野へ就職を希望する人には特に重要な項目となるので、しっかりとその知識を身につけるように努力してください。

## 9 教員氏名（ 舘川 大輔 ）

所 属（ ところ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて柔道整復師として勤務経験あり ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅰ ）

回数	授業内容
1	肩関節部の軟部組織損傷 1 筋、腱の損傷
2	2 スポーツ損傷
3	3 不安定症
4	4 末梢神経障害 5 その他の疾患
5	上腕部の軟部組織損傷
6	肘関節部の軟部組織損傷 1 靭帯の損傷
7	2 野球肘
8	3 テニス肘 4 その他の疾患
9	前腕部の軟部組織損傷
10	手関節部の軟部組織損傷 1 TFCC 損傷
11	2 ド・ケルバン病 3 末梢神経障害
12	4 キーンベック病 5 マーデルング変形
13	手部、指部の軟部組織損傷
14	前期まとめ
15	中間試験
16	試験解説
17	股関節部の軟部組織損傷 1 鼠径部痛症候群
18	2 股関節唇損傷 3 ばね股
19	4 梨状筋症候群 5 その他
20	大腿部の軟部組織損傷
21	膝関節部の軟部組織損傷 1 半月板損傷
22	2 靭帯損傷
23	3 発育期の膝関節障害
24	4 腸脛靭帯炎 5 鷲足炎
25	6 膝蓋大腿関節障害 7 膝周囲の関節包、滑液包の異常 8 神経障害
26	下腿部の軟部組織損傷 1 アキレス腱炎 2 アキレス腱断裂
27	3 下腿三頭筋に肉離れ 4 下腿部のスポーツ障害
28	足関節部の軟部組織損傷 1 足関節捻挫
29	2 足関節捻挫の類症鑑別
30	足・趾部の軟部組織損傷
31	定期試験
32	試験解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅱ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

## 1 授業の内容

体幹部脱臼の各論、頭部・顔面部軟部組織損傷の各論を学習する。

## 2 到達目標

各損傷の発生機序、分類、臨床症状を理解し、柔道整復師の業務範囲内外を明確にすることで、臨床力の基礎を修得することを目標とする。

## 3 授業の方法

教科書を用いた講義

## 4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

## 5 評価の際の特記事項

特になし。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

45分授業と短いため、特に授業進度計画に沿った教科書の予習、復習を行うこと。

## 7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会編「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）南江堂

## 8 学生へのメッセージ

解剖学、生理学等の基礎医学で得た知識と関連付けて覚えていくことが大事です。臨床例を知ることでモチベーションを上げるきっかけにしてください。

## 9 教員氏名（ 陣内 和幸 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて柔道整復師として勤務経験あり ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅱ ）

回数	授業内容
1	環軸関節脱臼
2	下位頸椎脱臼
3	胸椎部脱臼骨折
4	胸腰椎移行部脱臼骨折
5	腰椎脱臼
6	頭部、顔面部打撲
7	顎関節症（Ⅰ～Ⅲ型）
8	顎関節症（Ⅳ～ⅤⅢ型）
9	外傷性顎関節損傷（頸椎捻挫型、根症状型）
10	外傷性顎関節損傷（頸部交感神経症候群、混合型、脊髄症状型）
11	外傷性頸部症候群
12	胸郭出口症候群
13	寝違え
14	前期まとめ
15	中間試験
16	試験解説
17	胸肋関節損傷
18	肋間筋損傷
19	胸・背部打撲
20	背部の軟部組織損傷
21	腰部の軟部組織損傷（関節性 椎間関節性）
22	腰部の軟部組織損傷（関節性 椎体間連結）
23	腰部の軟部組織損傷（靭帯性 棘上・黄色・棘上靭帯）
24	腰部の軟部組織損傷（前後仙腸・骨間仙腸・仙結節・仙棘靭帯）
25	腰部の軟部組織損傷（筋・筋膜性 腰部）
26	腰部の軟部組織損傷（筋・筋膜性 仙骨部、殿部）
27	腰部の軟部組織損傷（筋・筋膜性 尾骨部）
28	体幹脱臼 復習
29	頭部軟部組織損傷 復習
30	体幹部軟部組織損傷 復習
31	定期試験
32	試験解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅲ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

## 1 授業の内容

上肢骨折を学習する。

## 2 到達目標

柔道整復師の業務範囲を理解し、各外傷の発生機序やそれらの特徴的症狀などを学び、  
施術に繋がる基礎知識を身につける。

## 3 授業の方法

PC プロジェクタを利用したパワーポイントや教科書を用いた講義

## 4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

## 5 評価の際の特記事項

特になし。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って、事前に教科書の予習・復習をしてくること。

## 7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会編「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）南江堂

## 8 学生へのメッセージ

柔道整復師の仕事を理解するためには、専門分野の知識を身につけなければなりません。  
理解力を高める為にも、授業に集中し、不明な点は後回しせず、都度質問をして、吸収し  
てください。

## 9 教員氏名（ 赤島 紋花 ）

所 属（ ところ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて柔道整復師として勤務経験あり ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅲ ）

回数	授業内容
1	鎖骨骨折
2	肩甲骨骨折 1 体部および上角・下角骨折
3	2 関節窩骨折
4	3 頸部骨折
5	4 肩峰骨折 5 烏口突起骨折
6	上腕骨近位部骨折 1 骨頭骨折
7	2 解剖頸骨折 3 外科頸骨折
8	4 大結節単独骨折 5 小結節単独骨折
9	6 近位骨端線離開
10	上腕骨骨幹部骨折
11	上腕骨遠位部骨折 1 上腕骨顆上骨折
12	2 上腕骨外顆骨折
13	3 上腕骨内側上顆骨折
14	前期まとめ
15	中間試験
16	試験解説
17	前腕骨近位部骨折
18	前腕骨骨幹部骨折 1 橈骨骨幹部骨折 2 ガレアジ骨折
19	3 尺骨骨幹部骨折 4 モンテギア骨折
20	5 橈・尺骨両骨骨幹部骨折
21	前腕骨遠位端部骨折（コーレス骨折）
22	前腕骨遠位端部骨折（その他の骨折）
23	手根骨部骨折 1 舟状骨骨折 2 月状骨骨折
24	3 有鉤骨骨折 4 豆状骨骨折
25	5 その他の手根骨骨折
26	中手骨部骨折 1 中手骨骨頭部骨折 2 中手骨頸部骨折
27	3 中手骨骨幹部骨折 4 第1中手骨基部骨折
28	5 第5中手骨基部骨折
29	指骨骨折 1 基節骨骨折 2 中節骨骨折
30	3 末節骨骨折 4 マレットフィンガー
31	定期試験
32	試験解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅴ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

## 1 授業の内容

臨床上発生頻度の高率な骨折、脱臼、軟部組織損傷の診察法、整復法の基本手順を理解し、実技実習をとおして学習する。

## 2 到達目標

各損傷の特徴、発生機序や症状を理解し、それらの診察手順、整復や検査法の基礎を、実技をとおして学習し、柔道整復術の基本を身につけることを目標とする。

## 3 授業の方法

相互に施術者と患者になりながら、診察法、整復法、固定法、検査法を行う。

## 4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

## 5 評価の際の特記事項

特になし。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

柔道整復学の理論編と関連付けて理解を深めてください。

## 7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・実技編」（改定第2版）南江堂

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編」（改定第7版）南江堂

## 8 学生へのメッセージ

1年次で学習した包帯の技術を更に向上させましょう。臨床力を身に付けるため、患者への対応も実践できるようにロールプレイングを通して学びましょう。白衣は常に清潔を心掛けてください。爪は短くし、装飾品（指輪、ピアスなど）は全て外してください。女子は髪を後ろにまとめるようにしてください。

## 9 教員氏名 （ 永田 俊晴 ）

所 属 （ ころも医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて柔道整復師として勤務経験あり ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 ( 柔道整復実技V )

回数	授業内容
1	鎖骨骨折 整復法
2	鎖骨骨折 固定法 ( デゾー包帯固定法 )
3	鎖骨骨折 固定法 ( リング固定法、8字帯 )
4	鎖骨骨折 固定法 ( セイヤー絆創膏固定法、厚紙副子固定法 )
5	肩鎖関節上方脱臼 整復法
6	肩鎖関節上方脱臼 固定法 ( ロバート・ジョーンズ絆創膏固定 )
7	上腕骨外科頸外転型骨折 整復法
8	上腕骨骨幹部骨折 固定法
9	肩関節前方脱臼 整復法 ( コッヘル法 )
10	肩関節前方脱臼 整復法 ( ヒポクラテス法 )
11	肩関節前方脱臼 固定法
12	コーレス骨折 整復法 ( 牽引直圧整復法 )
13	コーレス骨折 整復法 ( 屈曲整復法 )
14	前期まとめ
15	中間試験
16	試験解説
17	コーレス骨折 固定法
18	肘関節後方脱臼 整復法
19	肘関節後方脱臼 固定法
20	第5中手骨頸部骨折 固定法
21	肘内障 整復法
22	肋骨骨折 固定法
23	第2指 PIP 背側脱臼 固定法
24	下腿骨骨幹部骨折 固定法
25	膝関節側副靭帯損傷 固定法
26	アキレス腱断裂 固定法
27	足関節捻挫 固定法 ( バスケットウィーブ )
28	足関節捻挫 固定法 ( ヒールロック・フィギュアエイト )
29	足関節捻挫 固定法 ( 厚紙副子 )
30	後期まとめ
31	定期試験
32	試験解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技VIスポーツ競技者の外傷予防 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

## 1 授業の内容

競技者の外傷予防について、運動生理学を理解しながらスポーツ外傷や障害の予防法を理論とその実際を学ぶ。

## 2 到達目標

各種競技の特徴を学びながら運動生理学の理論を理解し、好発する各損傷を知り、それらの予防法の基礎について学んでいきます。特に、専門基礎分野と専門分野の知識が不可欠となるので、解剖学、生理学、柔道整復理論を学習し、理解を深めるように日々の学習に取り組んでください。

## 3 授業の方法

理論学習は教室で、実技実習は実習室において実施します。

## 4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

## 5 評価の際の特記事項

特になし。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進行計画を参考に、事前に内容を確認、予習をする。実習で学んだ実技内容を必ず復習する時間をつくること。繰り返しの実技演習が技術を修得する上で重要なことを認識すること。

## 7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「競技者の外傷予防」 医歯薬出版

## 8 学生へのメッセージ

専門基礎医学である生理学の理解と、運動学で引用される解剖学の理解度が求められるので各科目の予習と復習をするようにしてください。白衣は常に清潔にしましょう。爪は短くし、装飾品（指輪、ピアスなど）は全て外してください。女子は髪を後ろにまとめてください。

## 9 教員氏名 （ 永田 俊晴 ）

所 属 （ ころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて柔道整復師として勤務経験あり ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 柔道整復実技Ⅵ ）

回数	授業内容
1	運動生理学の概要
2	運動が生体に与える影響
3	運動のエネルギー代謝
4	無酸素性エネルギー供給機構
5	有酸素性エネルギー供給機構
6	運動強度の違いによるエネルギー供給機構の動員割合
7	運動と呼吸・循環
8	競技者の運動生理学的特徴
9	競技者の外傷予防
10	外傷の発生原因
11	外傷の予防対策
12	競技者の外傷予防のための実技 メディカルチェック（
13	外傷予防に必要なコンディショニングの方法と実際
14	種目別の外傷予防とその実際
15	定期試験
16	試験解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅶ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

## 1 授業の内容

柔道整復師の基本施術である整復法や固定法の実際を実技で体験し、基礎を学ぶ。

## 2 到達目標

座学で学んだ外傷の整復法や固定法の実際を実技を通して体験し、実践力を身に付けることを目標とする。

## 3 授業の方法

実習室での実技を教科書（理論・実技）を併用しながら授業を進める。

## 4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

## 5 評価の際の特記事項

特になし。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進行計画を参考に、事前に内容を確認、予習をする。実習で学んだ実技内容を必ず復習する時間をつくること。繰り返しの実技演習が技術を修得する上で重要なことを認識すること。

## 7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学 理論編」第7版 南江堂

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学 実技編」第2版 南江堂

## 8 学生へのメッセージ

実技では、実習着の着用、爪の手入れ、装飾品の禁止などに留意してください。女子は髪を後ろで束ねてください。

## 9 教員氏名 （ 伊藤 元太郎 ）

所 属 （ ころろ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて柔道整復師として勤務経験あり ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 柔道整復実技Ⅶ ）

回数	授業内容
1	膝蓋骨骨折 整復法
2	膝蓋骨骨折 固定法
3	下腿骨近位端部骨折 整復法
4	下腿骨近位端部骨折 固定法
5	下腿骨骨幹部骨折 整復法
6	下腿骨骨幹部骨折 固定法
7	下腿骨遠位端部骨折 整復法
8	下腿骨遠位端部骨折 固定法
9	足根骨骨折 整復法
10	足根骨骨折 固定法
11	中足骨骨折 整復法
12	中足骨骨折 固定法
13	趾骨骨折 整復法
14	趾骨骨折 固定法
15	中間試験
16	試験解説
17	肩腱板損傷 検査法
18	上腕二頭筋長頭腱損傷 検査法
19	大腿部打撲 検査法
20	ハムストリングス肉離れ 検査法
21	前十字靭帯損傷 検査法（ラックマン）
22	前十字靭帯損傷 検査法（前方引き出し）
23	側副靭帯損傷 検査法（側方動揺テスト）
24	側副靭帯損傷 検査法（牽引アプライテスト）
25	半月板損傷 検査法（マックマレーテスト）
26	半月板損傷 検査法（圧迫アプライテスト）
27	下腿肉離れ損傷 検査法
28	足関節捻挫 検査法（内反動揺テスト）
29	足関節捻挫 検査法（前方引き出し）
30	後期まとめ
31	定期試験
32	試験解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床実習Ⅱ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

## 1 授業の内容

臨床実習施設（附属施術所、臨床実習施設等）において、見学実習を主体とした臨床実習を行う。

## 2 到達目標

臨床現場における適切な行動・態度、そして責任感を修得することを目標とする。  
施術および施術所の運営についても見学する。

## 3 授業の方法

各臨床実習施設の臨床実習指導者の指示のもと、臨床現場に即した行動を実践する。  
実際の施術の現場や、関連する仕事の様子を見学する。

一連の業務内容を理解して柔道整復師としての基本的姿勢を身に付ける。臨床実習施設へは各自が公的交通手段を利用し、開始時間の20分前には到着し10分前には着替えを終了しなければならない。

## 4 成績評価方法・基準

出席、実習記録レポート等の提出物、各指導者による評価を総合して最終評価とする。

## 5 評価の際の特記事項

毎回のレポート提出は評価の基準となる。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

毎日、臨床実習に必要な基礎知識（専門基礎科目、専門科目）を学習する。

## 7 使用教材，教具

「実習の手引き」

## 8 学生へのメッセージ

資格取得後、実務を実践することを念頭に置いて体験、学習しましょう。時間厳守、コンプライアンスを実践し、自己責任を持って行動してください。「実習の手引き」に記載されている注意事項を厳守してください。

体調不良や交通機関のトラブルなどで欠席、遅刻する場合、必ず担当教員に連絡をしてください。

## 9 教員氏名（ 赤島 紋花 ）

所 属（ ころも医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて柔道整復師としての実務経験あり ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床実習Ⅱ ）

回数	授業内容
	7月～8月の間で5日～9日間（45時間）の臨床実習を行う。

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床実習Ⅲ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

## 1 授業の内容

臨床実習施設（附属施術所、臨床実習施設等）において、見学実習を主体とした臨床実習を行う。

## 2 到達目標

臨床現場における適切な行動・態度、そして責任感を修得することを目標とする。  
施術および施術所の運営についても見学する。

## 3 授業の方法

各臨床実習施設の臨床実習指導者の指示のもと、臨床現場に即した行動を実践する。  
実際の施術の現場や、関連する仕事の様子を見学する。

一連の業務内容を理解して柔道整復師としての基本的姿勢を身に付ける。臨床実習施設へは各自が公的交通手段を利用し、開始時間の20分前には到着し10分前には着替えを終了しなければならない。

## 4 成績評価方法・基準

出席、実習記録レポート等の提出物、各指導者による評価を総合して最終評価とする。

## 5 評価の際の特記事項

毎回のレポート提出は評価の基準となる。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

毎日、臨床実習に必要な基礎知識（専門基礎科目、専門科目）を学習する。

## 7 使用教材，教具

「実習の手引き」

## 8 学生へのメッセージ

資格取得後、実務を実践することを念頭に置いて体験、学習しましょう。時間厳守、コンプライアンスを実践し、自己責任を持って行動してください。「実習の手引き」に記載されている注意事項を厳守してください。

体調不良や交通機関のトラブルなどで欠席、遅刻する場合、必ず担当教員に連絡をしてください。

## 9 教員氏名（ 赤島 紋花 ）

所 属 （ ころも医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて柔道整復師としての実務経験あり ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床実習Ⅲ ）

回数	授業内容
	1月～2月の間で5日～9日間（45時間）の臨床実習を行う。

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 解剖学Ⅰ ）

学科名 柔道整復科

学年 1年

## 1 授業の内容

人体の骨格および筋肉について学習する。

## 2 到達目標

人体の骨格の構造と筋肉の起始停止やその作用について理解する。

## 3 授業の方法

PCプロジェクターを使用したパワーポイントによる講義。骨および筋の模写。

## 4 成績評価方法・基準

定期試験の成績を 100%

## 5 評価の際の特記事項

特になし。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

前回の授業内容を復習し、これまでの知識を活かして授業に臨む。

## 7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「解剖学」（改訂版第2版）医歯薬出版

## 8 学生へのメッセージ

運動器は施術所などで治療する際の基礎的な知識です。暗記が多くなりますが、一つ一つ覚えましょう。

## 9 教員氏名 （ 伊藤 元太郎 ）

所 属 （ ころろ医療福祉専門学校 柔道整復科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて柔道整復師として勤務経験あり ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 解剖学 I ）

回数	授業内容
1	解剖学総論
2	骨格系 総論 身体構造の全体像
3	脊柱の構造
4	胸郭の構造
5	上肢骨 1 上肢帯（鎖骨、肩甲骨）
6	2 上腕骨、橈骨、尺骨
7	3 手根骨
8	下肢骨 1 下肢帯（寛骨）
9	2 大腿骨、膝蓋骨、脛骨、腓骨
10	3 足根骨
11	頭蓋骨 1 脳頭蓋
12	2 顔面頭蓋
13	前期まとめ① 骨総論、四肢の骨
14	前期まとめ② 軸骨格、頭蓋骨
15	中間試験
16	試験解説
17	筋系 総論
18	体幹の筋 1 胸部、腹部
19	2 背部
20	上肢の筋 1 上肢帯、上腕屈筋・伸筋
21	2 前腕屈筋
22	3 前腕伸筋
23	下肢の筋 1 下肢帯
24	2 大腿伸筋・屈筋・内転筋
25	3 下腿伸筋・屈筋・腓骨筋群
26	頭頸部の筋 1 表情筋
27	2 咀嚼筋
28	後期まとめ① 上半身の筋
29	後期まとめ② 下半身の筋
30	後期まとめ③ 頭頸部の筋
31	定期試験
32	試験解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道 I ）

学科名 柔道整復科

学年 1年

## 1 授業の内容

相対する二人が、互いに相手の動きに応じて技能を競い合う格闘形式の運動であるので、相手を尊重し安全に練習や行動ができる能力を育てる。

## 2 到達目標

基本動作（移動、崩し）と受身の習得を中心に学習させ、個人の体力、能力に応じた安全で効果的な練習方法によって柔道技術の習得を目標とする。

## 3 授業の方法

講堂に畳を敷き実施する。

## 4 成績評価方法・基準

基本実技試験で評価するが、出席率・授業態度も加味する。

## 5 評価の際の特記事項

授業態度とは、身だしなみ・適切な返事・適切な行動・周りに迷惑をかけないなどを評価に入れる。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

実技試験前の自己練習においては、必ず専任教員に申告して実施すること。特に怪我などに留意し、練習後は清掃を行うこと。

## 7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「柔道」 南江堂出版のほか、資料を適宜配布する。

## 8 学生へのメッセージ

初心を忘れず、怪我に注意して毎回の授業に取り組んで下さい。

## 9 教員氏名 （ 宮田 哲弘 ）

所 属 （ ところ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて柔道整復師として勤務経験あり ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

## 科目名（柔道Ⅰ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	礼法、後受身
3	横受身、前方受身
4	前回受身
5	組み方、体さばき
6	形（浮落）
7	形（背負投）
8	形（肩車）
9	形（払腰）
10	形（浮腰）
11	形（釣込腰）
12	形（送足払）
13	形（支釣込足）
14	形（内股）
15	定期試験
16	試験解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅰ ）

学科名 柔道整復科

学年 1年

## 1 授業の内容

総論は関節損傷および軟部組織損傷を学び、各組織の構造と機能を理解し、各論への理解を進めるうえでの基礎とする。

各論では、上肢脱臼へと学習を進めていく。

## 2 到達目標

ある程度の解剖学を行いながら関節や軟部組織損傷を理解していく。柔道整復師が業務として取り扱う運動器の損傷についての過程や説明まで行えるようになることを目標とする。

## 3 授業の方法

パワーポイントや板書、資料と教科書を基に授業を展開する。

## 4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

## 5 評価の際の特記事項

特になし。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業の前に、その日にやる範囲の教科書を読んでおいてください。授業終了後は、その日のうちに必ず復習し、分からない箇所があれば質問し、理解をすること。

## 7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編 改訂第7版」南江堂

## 8 学生へのメッセージ

柔道整復師の仕事を理解するためには、専門分野の知識を身につけなければなりません。理解力を高める為にも、授業に集中し、不明な点は後回しせず、都度質問をして、吸収してください。

## 9 教員氏名（ 舘川 大輔 ）

所 属 （ ころ医療福祉専門学校 柔道整復科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて柔道整復師として勤務経験あり ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅰ ）

回数	授業内容
1	業務範囲と心得
2	柔道整復師倫理綱領
3	関節の構造と機能
4	関節部損傷の概説
5	関節部損傷の分類
6	鑑別診断を要する類症
7	脱臼（定義と概説、発生頻度）
8	脱臼（分類①関節の性状～関節面相互の位置）
9	脱臼（分類②数～外力の働いた部位）
10	脱臼（分類③発生時期～経過）
11	脱臼（症状、合併症）
12	脱臼（整復障害）
13	脱臼（経過と予後）
14	関節構成組織損傷
15	中間試験
16	試験解説
17	鎖骨脱臼
18	肩関節脱臼（前方、反復性）
19	肩関節脱臼（後方、下方、上方）
20	肘関節脱臼（後方）
21	肘関節脱臼（後方、側方、分散）
22	橈骨頭脱臼、肘内障
23	手関節脱臼
24	月状骨脱臼
25	手根中手関節脱臼
26	第1指中手指節関節脱臼
27	第1指以外の中手指節関節脱臼
28	近位指節間関節脱臼
29	遠位指節間関節脱臼
30	上肢脱臼まとめ
31	定期試験
32	試験解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅱ ）

学科名 柔道整復科

学年 1年

## 1 授業の内容

総論は骨折損傷を学び、骨の構造と機能を理解し、各論への理解を進めるうえでの基礎とする。

各論では、頭部や体幹骨折へと学習を進めていく。

## 2 到達目標

ある程度の解剖学を行いながら骨の構造や役割を理解していく。柔道整復師が業務として取り扱う骨折の損傷についての過程や説明まで行えるようになることを目標とする。

## 3 授業の方法

パワーポイントや板書、資料と教科書を基に授業を展開する。

## 4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

## 5 評価の際の特記事項

特になし。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業の前に、その日にやる範囲の教科書を読んでおいてください。授業終了後は、その日のうちに必ず復習し、分からない箇所があれば質問し、理解をすること。

## 7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編 改訂第7版」南江堂

## 8 学生へのメッセージ

柔道整復師の仕事を理解するためには、専門分野の知識を身につけなければなりません。理解力を高める為にも、授業に集中し、不明な点は後回しせず、都度質問をして、吸収してください。

## 9 教員氏名（ 赤島 紋花 ）

所 属 （ ころ医療福祉専門学校 柔道整復科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて柔道整復師として勤務経験あり ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅱ ）

回数	授業内容
1	柔道整復術および柔道整復師の沿革
2	人体に加わる力
3	損傷時に加わる力
4	骨の形態と機能
5	骨損傷の概説
6	骨折部の分類（骨の性状～骨折線の方向）
7	骨折部の分類（創部との交通の有無～外力の働いた部位）
8	骨折部の分類（外力の働き方～骨折部位）
9	骨折の症状（一般症状）
10	骨折の症状（固有症状）
11	骨折の合併症（併発症）
12	骨折の合併症（続発症）
13	骨折の合併症（後遺症）
14	前期のまとめ
15	中間試験
16	試験解説
17	小児骨折
18	高齢者骨折
19	骨折の治癒経過
20	骨折の予後
21	骨折の治癒に影響を与える因子
22	頭蓋骨骨折
23	顔面頭蓋骨骨折
24	上位頸椎骨折
25	中・下位頸椎骨折
26	胸椎骨折
27	腰椎骨折
28	肋骨骨折
29	胸骨骨折
30	後期のまとめ
31	定期試験
32	試験解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅲ ）

学科名 柔道整復科

学年 1年

## 1 授業の内容

前期は総論の筋、腱、末梢神経損傷を学び、各組織の構造と機能を理解し、各論への理解を進めるうえでの基礎とする。また、診察方法や外傷の予防方法も学び適切な指導を行うための知識を習得する。

後期では、柔道整復師が実際に行う後療法について知識へと学習を進めていく。

## 2 到達目標

ある程度の解剖学を行いながら筋、腱、末梢神経の構造や役割を理解していく。柔道整復師が業務として取り扱うそれらの損傷についての過程や説明まで行えるようになることを目標とする。また、実際に施術所で行っている後療法についても意義や説明を行えるようになることを目標とする。

## 3 授業の方法

パワーポイントや板書、資料と教科書を基に授業を展開する。

## 4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

## 5 評価の際の特記事項

特になし。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業の前に、その日にやる範囲の教科書を読んでおいてください。授業終了後は、その日のうちに必ず復習し、分からない箇所があれば質問し、理解をすること。

## 7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編 改訂第7版」南江堂

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・実技編」第2版 南江堂

## 8 学生へのメッセージ

柔道整復師の仕事を理解するためには、専門分野の知識を身につけなければなりません。理解力を高める為にも、授業に集中し、不明な点は後回しせず、都度質問をして、吸収してください。

## 9 教員氏名（伊藤 元太郎 / 舘川 大輔）

所属（ ころ医療福祉専門学校 柔道整復科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて柔道整復師として勤務経験あり ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅲ ）

回数	授業内容
1	痛みの基礎
2	筋の損傷（構造と機能～概説）
3	筋の損傷（分類）
4	筋の損傷（症状）
5	筋の損傷（治癒機序～予後）
6	腱の損傷（構造と機能～概説）
7	腱の損傷（分類）
8	腱の損傷（症状）
9	腱の損傷（治癒機序）
10	末梢神経の損傷（構造と機能～概説）
11	末梢神経の損傷（分類）
12	末梢神経の損傷（症状）
13	末梢神経の損傷（治癒機序）
14	診察（注意点～分類）
15	治療計画の作成
16	施術録の扱いと記載
17	外傷予防（第一段階）
18	外傷予防（第二段階）
19	外傷予防（第三段階）
20	患者の姿勢および歩行の観察
21	全身状態の観察
22	主訴、原因の聴取
23	既往歴、家族歴の聴取
24	生活様式、障害状況の聴取
25	疼痛の聴取
26	観察（変形、腫脹）
27	観察（アライメント）
28	観察（色）
29	観察（筋）
30	観察（皮膚）
31	中間試験
32	試験解説

回数	授業内容
33	後療法 容量
34	後療法 患者の準備
35	手技療法 (基本法)
36	手技療法 (適応、禁忌)
37	運動療法 (基本型)
38	運動療法 (種類)
39	運動療法 (実際)
40	物理療法 (電気療法)
41	物理療法 (温熱療法)
42	物理療法 (光線療法、寒冷療法)
43	物理療法 (牽引療法、その他)
44	指導管理 (患者と環境の把握)
45	指導管理 (環境に対する指導)
46	指導管理 (自己管理に対する指導)
47	定期試験
48	試験解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅳ ）

学科名 柔道整復科

学年 1年

## 1 授業の内容

柔道整復師に必要な上肢骨折（鎖骨～前腕骨）の知識を深め、担当教員の実務経験を基にした患者への接し方、所見の取り方、治療の説明を行い、実践的な知識力を身に付ける。

## 2 到達目標

柔道整復師の業務範囲を理解し、各外傷の発生機序やそれらの特徴的症状などを学び、施術に繋がる基礎知識を身につける。

## 3 授業の方法

パワーポイントや板書、資料と教科書を基に授業を展開する。

## 4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

## 5 評価の際の特記事項

特になし。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業の前に、その日にやる範囲の教科書を読んでおいてください。授業終了後は、その日のうちに必ず復習し、分からない箇所があれば質問し、理解をすること。

## 7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編 改訂第7版」南江堂

## 8 学生へのメッセージ

柔道整復師の仕事を理解するためには、専門分野の知識を身につけなければなりません。理解力を高める為にも、授業に集中し、不明な点は後回しせず、都度質問をして、吸収してください。

## 9 教員氏名（ 赤島 紋花 ）

所 属（ ころろ医療福祉専門学校 柔道整復科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて柔道整復師として勤務経験あり ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅳ ）

回数	授業内容
1	鎖骨骨折
2	肩甲骨骨折 1 体部および上・下角骨折
3	2 関節窩骨折
4	3 頸部骨折
5	4 肩峰骨折
6	5 烏口突起骨折
7	上腕骨近位部骨折 1 骨頭骨折
8	2 解剖頸骨折
9	3 外科頸骨折
10	4 大結節単独骨折
11	5 小結節単独骨折
12	6 近位骨端線離開
13	前期まとめ①（鎖骨、肩甲骨骨折）
14	前期まとめ②（上腕骨近位部骨折）
15	中間試験
16	試験解説
17	上腕骨骨幹部骨折
18	上腕骨遠位部骨折 1 顆上骨折
19	2 外顆骨折
20	3 内側上顆骨折
21	前腕近位部骨折 1 橈骨近位端部骨折
22	2 肘頭骨折
23	前腕骨骨幹部骨折 1 橈骨骨幹部骨折
24	2 ガレアジ骨折
25	3 尺骨骨幹部骨折
26	4 モンテギア骨折
27	5 橈・尺両骨骨幹部骨折
28	前腕骨遠位端部骨折
29	後期まとめ①（上腕骨骨幹部、遠位端部骨折）
30	後期まとめ②（前腕骨骨折）
31	定期試験
32	試験解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅴ ）

学科名 柔道整復科

学年 1年

## 1 授業の内容

外傷の治療法（整復法・固定法）、患者の指導管理を学び、臨床現場に活用できる知識を習得する。

各論では顎関節、脊椎の脱臼へと学習を進めていく。

## 2 到達目標

柔道整復師が行える治療法の基礎を理解することを目標とする。

外傷の発生機序やそれらの特徴的症状などを学び、施術に繋がる基礎知識を身につける。

## 3 授業の方法

板書を基本に、教科書と資料をもとに授業を展開していきます。

## 4 成績評価方法・基準

定期試験 80%、授業態度 20%

## 5 評価の際の特記事項

特になし。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業計画（シラバス）を参考に、その日に学習する範囲を教科書で確認し、事前に予習を行っておいてください。授業終了後は、教科書を読み返して、必ず復習してください。

## 7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編第7版」南江堂

## 8 学生へのメッセージ

柔道整復師の仕事を理解するためには、専門分野の知識を身につけなければなりません。理解力を高める為にも、授業に集中し、不明な点はその都度質問をして吸収してください。

## 9 教員氏名 （ 宮田 哲弘 ）

所 属 （ ころろ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて柔道整復師としての勤務経験あり ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅴ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	整復法とは
3	A 徒手整復施行時の配慮
4	B 骨折の整復法
5	C 脱臼の整復法
6	D 徒手整復後の確認と配慮
7	E 軟部組織損傷の初期処置
8	固定法とは
9	A 固定施工時の配慮
10	B 固定後の配慮
11	指導管理とは
12	A 患者とその環境の把握
13	B 患者の環境に対する指導管理
14	C 自己管理に対する指導
15	中間試験
16	試験解説
17	頭部、顔面の脱臼 概説
18	A 顎関節脱臼 1 前方脱臼
19	2 後方脱臼
20	3 側方脱臼
21	B 頸椎脱臼 1 環軸関節の脱臼および脱臼骨折（概説）
22	1 環軸関節の脱臼および脱臼骨折（整復法）
23	2 下位頸椎の脱臼および脱臼骨折（概説）
24	2 下位頸椎の脱臼および脱臼骨折（整復法）
25	C 胸椎の脱臼 1 胸椎部脱臼骨折（概説）
26	1 胸椎部脱臼骨折（整復法）
27	2 胸腰椎移行部脱臼骨折（概説）
28	2 胸腰椎移行部脱臼骨折（整復法）
29	D 腰椎の脱臼（概説）
30	D 腰椎の脱臼（整復法）
31	定期試験
32	試験解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅰ ）

学科名 柔道整復科

学年 1年

## 1 授業の内容

柔道整復術の基礎となる包帯法、軟性材料、硬性材料について基本技術を修得する。

## 2 到達目標

基本包帯法、冠名包帯法などの技法を修得し各部位への包帯固定ができる。テーピングの基礎を修得する。軟性材料、硬性材料の特性を知る。

## 3 授業の方法

教科書を用いた講義及び講義内容に関連する実技の実践

## 4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

## 5 評価の際の特記事項

実技授業は実習着を着用して臨むこと。着用していない場合は出席を認めない。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業時間以外の反復練習が技術向上の鍵です。様々な体型・体格の方、違う性別の方に包帯を巻くことも大切です。

## 7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「包帯固定学」南江堂

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編」第7版 南江堂

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・実技編」第2版 南江堂

## 8 学生へのメッセージ

実習実技は臨床への重要な学習手段です。全出席を目指し、施術法習得の一環として確実に基礎が身に付くように努力をしてください。実習着は常に清潔にしましょう。爪は短くし、装飾品（指輪、ピアスなど）は全て外してください。女子は髪を後ろにまとめてください。

## 9 教員氏名（ 永田 俊晴 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 柔道整復科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて柔道整復師として勤務経験あり ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 柔道整復実技Ⅰ ）

回数	授業内容
1	実習の受け方 包帯固定学
2	固定及び固定材料について
3	巻軸帯の巻き方と注意事項、巻軸帯の巻き戻し
4	1 環行帯
5	2 螺旋帯
6	3 蛇行帯
7	4 折転帯
8	5 亀甲帯
9	6 麦穂帯
10	デゾー包帯法
11	デゾー包帯法 復習
12	ヴェルポー包帯法
13	ジュール包帯法
14	三角巾を用いた固定
15	中間試験
16	試験解説
17	各部位への包帯法 1 肩関節
18	2 肘関節
19	3 前腕部
20	4 手関節 5 指
21	6 膝関節
22	7 下腿部
23	8 足関節
24	9 体幹部
25	テーピング 1 足関節
26	2 膝関節
27	3 肘関節
28	4 肩関節
29	5 指
30	6 下腿部
31	定期試験
32	試験解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅱ ）

学科名 柔道整復科

学年 1年

## 1 授業の内容

柔道整復術として必須である、診察法について学ぶ。

## 2 到達目標

柔道整復師として必要なコミュニケーション能力や解剖学の知識を基に、臨床現場で実践できる問診の技術を身に付けることを目標とする。

## 3 授業の方法

相互に施術者と患者になりながら、基本の診察法をロールプレイで通して行う。

## 4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

## 5 評価の際の特記事項

特になし。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

45分授業になるので、各自予習、復習を心がけてください。

## 7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・実技編改定第2版」南江堂

全国柔道整復学校協会監修 「解剖学」（改訂版第2版）医歯薬出版

## 8 学生へのメッセージ

実技授業になるので、白衣は必ず着用すること。臨床力を身に付けるため、まじめに実技実習に取り組むこと。白衣は常に清潔を心掛けること。爪は短くし、装飾品（指輪、ピアスなど）は全て外す。女子は髪を後ろにまとめること。

## 9 教員氏名（ 伊藤 元太郎 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 柔道整復科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて柔道整復師としての実務経験あり ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 柔道整復実技Ⅱ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	骨折、脱臼、軟部組織損傷の施術
3	観察および問診
4	視診（皮膚、筋肉）
5	視診（歩容、代償運動）
6	触診（骨）
7	触診（筋肉）
8	触診（脈管）
9	触診（神経）
10	機能的診察
11	合併症の有無
12	説明と同意（損傷や疾患の状況）
13	説明と同意（予想される経過）
14	説明と同意（施術や整復の必要性）
15	中間試験
16	試験解説
17	肩部外側からの打撃による損傷の診察
18	肩部前方または前外方からの打撃による損傷の診察
19	肩部後方または後外方からの打撃による損傷の診察
20	肩峰部の打撃による損傷の診察
21	肩甲骨部の打撃による損傷の診察
22	肩関節外転位で手掌部を衝いて生じた損傷の診察
23	肩関節内転位で肘部を衝いて生じた損傷の診察
24	肩関節外転位で肘部を衝いて生じた損傷の診察
25	明確な原因のない損傷の診察 1 野球
26	2 バレーボール
27	3 テニス
28	4 水泳
29	5 体操競技
30	6 重量物
31	定期試験
32	試験解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅲ ）

学科名 柔道整復科

学年 1年

## 1 授業の内容

柔道整復術として固定具の知識を習得し、症状に応じた固定法の実践力や固定具の作成を行う。

## 2 到達目標

柔道整復術で行う固定材料の種類や特性を学び、それらの実践技術を習得することを目標とする。

## 3 授業の方法

実技実習を行い、固定法を身に付ける。

## 4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

## 5 評価の際の特記事項

特になし。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進行計画を参考に、事前に内容を確認、予習をする。実習で学んだ実技内容を必ず復習する時間を作る。繰り返しの実技演習が技術を修得す上で重要なことを認識すること。

## 7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編第7版」南江堂

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・実技編第2版」南江堂

## 8 学生へのメッセージ

固定法の習得には基礎練習が大切になります。基礎を身に付ける努力をしてください。実習実技は臨床への重要な学習手段です。全出席を目指し、確実に基礎が身に付くように弛まぬ努力をしてください。実習着は常に清潔にしましょう。爪は短くし、装飾品（指輪、ピアスなど）は全て外してください。女子は髪を後ろにまとめてください。

## 9 教員氏名（ 永田 俊晴 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 柔道整復科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて柔道整復師として勤務経験あり ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 柔道整復実技Ⅲ ）

回数	授業内容
1	固定の目的
2	固定材料の種類 1 硬性材料
3	2 軟性材料
4	厚紙副子の使い方（上肢）
5	厚紙副子の使い方（下肢）
6	厚紙副子の使い方（体幹）
7	クラーメル副子の使い方（上肢）
8	クラーメル副子の使い方（下肢）
9	アルミ副子の使い方
10	ギプスの作成手順
11	吸水硬化性キャスト材の使い方
12	熱可逆性キャスト材（ロール）の使い方
13	熱可逆性キャスト材（板状）の使い方
14	前期まとめ
15	中間試験
16	試験解説
17	鎖骨骨折の固定方法（注意点）
18	鎖骨骨折の固定方法（流れ）
19	上腕骨外科頸骨折の固定方法（注意点）
20	上腕骨外科頸骨折の固定方法（流れ）
21	コーレス骨折の固定方法（注意点）
22	コーレス骨折の固定方法（流れ）
23	肋骨骨折の固定方法（注意点）
24	肋骨骨折の固定方法（流れ）
25	肩鎖関節上方脱臼の固定方法（注意点）
26	肩鎖関節上方脱臼の固定方法（流れ）
27	肩関節前方脱臼の固定方法（注意点）
28	肩関節前方脱臼の固定方法（流れ）
29	肘関節後方脱臼の固定方法（注意点）
30	肘関節後方脱臼の固定方法（流れ）
31	定期試験
32	試験解説

# シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床実習 I ）

学科名 柔道整復科

学年 1年

## 1 授業の内容

臨床実習施設（附属施術所、臨床実習施設等）において、見学実習を主体とした臨床実習を行う。

## 2 到達目標

臨床現場における適切な行動・態度、そして責任感を修得することを目標とする。  
施術および施術所の運営についても見学する。

## 3 授業の方法

各臨床実習施設の臨床実習指導者の指示のもと、臨床現場に即した行動を実践する。  
実際の施術の現場や、関連する仕事の様子を見学する。  
一連の業務内容を理解して柔道整復師としての基本的姿勢を身に付ける。

## 4 成績評価方法・基準

出席、実習記録レポート等の提出物、各指導者による評価を総合して最終評価。

## 5 評価の際の特記事項

毎回のレポート提出は評価の基準となる。

## 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

毎日、臨床実習に必要な基礎知識（専門基礎科目、専門科目）を学習する。

## 7 使用教材，教具

「実習の手引き」

## 8 学生へのメッセージ

資格取得後、実務を実践することを念頭に置いて体験、学習しましょう。時間厳守、コンプライアンスを実践し、自己責任を持って行動してください。「実習の手引き」に記載されている注意事項を厳守してください。

体調不良や交通機関のトラブルなどで欠席、遅刻する場合、必ず担当教員に連絡をしてください。

## 9 教員氏名（ 舘川 大輔 ）

所 属 （ ころ医療福祉専門学校 柔道整復科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて柔道整復師としての実務経験あり ）

## 10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 ( 臨床実習 I )

回数	授業内容
	3月中の5日～9日間(45時間)の臨床実習を行う。